

I. ライフサイクルに応じた取引先企業の支援

地域活性化に貢献するための産学官連携の推進について

(金融機関名)豊橋信用金庫

1. 動機(経緯)	豊橋市には、国立大学法人豊橋技術科学大学、及び産学官連携を推進する機関である株式会社サイエンスクリエイト(第三セクター)があり、古くから産学官連携の土壌があった。また、豊橋市を中心とする東三河地域は全国有数の農業地域であり、同大学では、平成18年10月、工学の分野から農業を支援する農・工連携推進のため「先端農業バイオ・リサーチセンター」を設置した。
2. 概要	<ul style="list-style-type: none">・平成14年4月、当金庫では地域産業界の産学官連携のニーズを踏まえ、産学官連携を推進することにより地域経済の活性化に貢献することを目的として、業務部の中に新事業支援課を創設した。・平成14年9月、新事業支援課の担当者が同大学から産学連携コーディネーターの委嘱を受け、同大学と地域の中小企業とのマッチングなどを行っている。営業店の職員と同課の担当者が同大学のコーディネーターと連携して、大学教授などとの技術相談や共同研究につなげている。・平成18年6月、これまでの産学官連携の取り組みを更に強化し、組織レベルでの連携・協力関係を構築するため、同大学との間で「教育研究の振興と産学連携の推進に関する協定」を締結した。・平成19年4月、同大学の農・工連携の取り組みに実効性を持たせるため、当金庫が地元の4信金に呼びかけて全国でも初の取組みとなる農業関連の寄附講座「しんきん食農技術科学講座」を同大学に設置した。
3. 成果(効果)	<ul style="list-style-type: none">・平成20年2月末時点で、同大学に対して地域の中小企業の技術相談を37件、共同研究を2件取り次いでいる。・独立行政法人中小企業基盤整備機構と連携し、産学官連携に取り組んでいる企業などの新連携の認定取得支援を行っており、平成20年2月末時点で、6件が認定を取得している。・寄附講座では、東北大学で土壌肥料学等を中心に研究されてきた教授を豊橋技術科学大学の特任教授として招聘し、農業生産の効率化・生産性向上などに関する研究を行っている。同特任教授には、学内で学生等を対象に講義を行う以外にも一般農家や農業に関連する企業等を対象にセミナーを開講していただいております。地域農家等約40人が参加し好評を得ている。地域の基幹産業である農業を支援することで地域経済の活性化が期待できる。
4. 今後の予定(課題)	地元の中小企業のなかには、産学官連携を行うことで事業の発展が見込まれる先が多くある。しかしながら、中小企業にとって大学の敷居は未だに高く、公的補助制度などにも詳しいとは言えないのが現状である。当金庫では、産学官連携の推進を一段と強化し、地域の中小企業の発展や地域の活性化に貢献していく方針である。

・地域活性化への貢献：産学官連携の推進の事例

◎ 産学官連携の推進の目的

産学官連携を推進することにより、地域の中小企業の発展を支援し、地域経済の活性化に貢献する。

◎ 産学官連携の推進の内容

地域の中小企業の新事業や技術課題などの情報を収集し、大学や各種支援機関を紹介したり、各種補助制度や支援制度などを紹介するとともに、申請書や計画書などを作成する際の支援を行っている。

